

10/19/34

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv

04653158 **Image available**

APPLICATION PREPARATION SYSTEM

PUB. NO.: 06-325058 [JP 6325058 A]

PUBLISHED: November 25, 1994 (19941125)

INVENTOR(s): KOMADA KENJI

SHIMURA HEIJI

APPLICANT(s): HITACHI LTD [000510] (A Japanese Company or Corporation),
JP

(Japan)

APPL. NO.: 05-114378 [JP 93114378]

FILED: May 17, 1993 (19930517)

INTL CLASS: [5] G06F-015/22; G06F-003/03

JAPIO CLASS: 45.4 (INFORMATION PROCESSING -- Computer Applications);
45.3

(INFORMATION PROCESSING -- Input Output Units)

JAPIO KEYWORD: R131 (INFORMATION PROCESSING -- Microcomputers &
Microprocessors)

ABSTRACT

PURPOSE: To save man power for preparing an application, to shorten processing time and to improve accuracy of described contents by using an application preparing device equipped with a pen input computer.

CONSTITUTION: At an application preparing device 1, the format of an application form and the application data of description points are read from an application data storage device 8 and displayed on an input/output device 4 of the pen input computer. An applicant designates the relevant data out of the displayed application data by using a pen 3 and writes application contents, when condition check items to confirm whether the application contents are suitable or not are inputted from a keyboard 5, correction comparison is performed by using the condition check items in a condition check item storage means 9, and it is judged whether the inputted application data are suitable or not. Namely, since a document, picture and signature containing Chinese characters are directly inputted by the pen 3 for the job of application and the pen input computer is used for inputting the application contents containing a seal impression, general applicant enables application processing.

EE
202

This Page Blank (uspto)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-325058

(43) 公開日 平成6年(1994)11月25日

(51) Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/22
3/03

識別記号

3 1 0 E

庁内整理番号

8724-5L
7165-5B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平5-114378

(22) 出願日 平成5年(1993)5月17日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所
東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 駒田 健二

東京都江東区新砂1-6-27 新砂プラザ
株式会社日立製作所公共情報事業部内

(72) 発明者 志村 平治

東京都江東区新砂1-6-27 新砂プラザ
株式会社日立製作所公共情報事業部内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

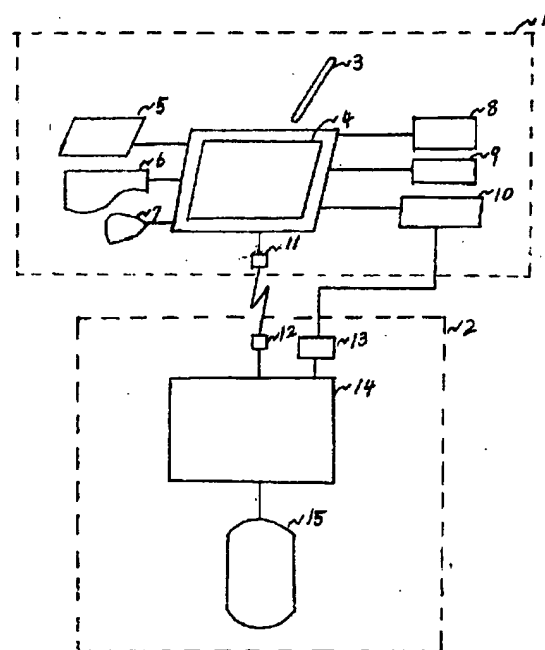
(54) 【発明の名称】 申請書作成システム

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 申請書作成業務において、ペン入力コンピュータを用いて、申請人に対する記入説明や記入内容のチェックを行うことにより、申請人の申請書の記入時間と窓口のデータ入力時間と労力削減を可能とする。

【構成】 ペンコンピュータを用いて申請書の作成を行う申請書作成装置と、作成される申請書を登録する申請書受付処理装置からなる。申請書作成装置においては、申請書のフォーマットや申請書の記入要領等の申請書データを読み込み、申請書データをペンコンピュータの処理装置である申請書データ入出力手段に表示し、それらのデータに基づいて記入される申請内容が適切であるかをチェックし、申請内容の書き込みを行い、登録する申請書である申請書登録データを印刷する。申請書登録データは、同時に申請書受付処理装置に転送され、申請書受付処理装置において転送される申請書登録データを受信し、申請内容登録手段により、申請内容を登録する。

図1



EE
1082

【特許請求の範囲】

【請求項1】申請書を作成するシステムにおいて、申請書のフォーマットと申請書の記入要領を説明するために用いる申請書データを記憶する申請書データ記憶手段と、前記申請書データ記憶手段に格納されるデータを表示すると共に、この表示されたデータ上に申請人が記入する申請内容となるデータを前記データと共に読み込み、表示する申請書データ入出力手段と、前記申請書データ入出力手段に表示される申請書の記入要領の説明に応答し、前記申請人が記入する申請内容となるデータを記入する申請内容記入手段と、前記申請人が申請内容となるデータの正誤を確認するために用いる条件チェック項目を入力する条件チェック項目入力手段と、申請人が申請内容となるデータの正誤を確認するために用いる条件チェック項目を記憶する条件チェック項目記憶手段と、申請人により記入される申請内容となるデータを前記条件チェック項目入力手段により入力される条件チェック項目と比較し、入力される申請内容が適切かどうかを判定する申請データ入出力手段に内在する申請内容チェック手段と、申請書データと申請書データ上に記入される該申請内容チェック手段によりチェックされる申請内容からなる申請書登録データを記憶する記憶部を有することを特徴とする申請書作成システム。

【請求項2】請求項1記載の申請書作成システムにおいて、前記申請書データ記憶手段は、申請の種類を問うためのメニュー等の申請書記入ガイドを記憶し、前記申請書データ入出力手段は、前記申請書記入ガイドを入力表示し、前記申請内容記入手段は、前記申請書記入ガイドの表示された内容に対する応答を入力することを特徴とする申請書作成システム。

【請求項3】請求項1記載の申請書作成システムにおいて、前記申請書作成装置は、申請処理の際の本人確認のための押印を行う印鑑入力手段を含み、前記申請内容チェック手段は、印鑑の押印が必要な場合は、印影の有無をチェックし、前記申請書登録データは、押印された印鑑の印影も含むデータであることを特徴とする申請書作成システム。

【請求項4】請求項1記載の申請書作成システムにおいて、前記記憶部は、携帯可能な記憶媒体と、通信回線を介して申請書を受け付ける装置に転送される申請書登録データを登録する申請内容登録手段とを含むことを特徴とする申請書作成システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ペン入力コンピュータ

を用いたシステムに関し、特に各種の申請書類を作成する申請書作成システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の申請書作成処理業務は、申請人が記入ガイドを参照しながら規定の申請書の用紙に手書きで行なっている。しかし、記入ガイドが余りに汎用すぎて、一般の申請人の知識だけでは記入が容易でなく、知識未熟による記載不備等が発生しやすい。このため、申請人が申請書を作成する際に、記入様式、記載内容及び申請人の記入データに沿った記載の指導等を窓口等の係が行う必要がある。

【0003】従来の申請書入力方式では、申請書を受け取る窓口側でキーイン入力、データパンチ入力、あるいは特開平01-118970号公報記載の「文字読取・認識装置」のように光学的文字認識装置等によるコンピュータ入力を行い、記載事項の内容をチェックし、チェック結果のフィードバックを申請人とやりとりしている。このため、1件あたりの申請書受付処理時間は長く、申請人が記入する作業と窓口側で入力する作業が重複しており、人件費を含めると、申請書入力から申請書作成の申請処理に関する費用は膨大である。

【0004】一般の申請人に申請書の入力作業の一部を負担させるという入力方式としては、申請書様式をOCRシート等の光学的読み取り可能な用紙へ変更可能な申請書を用いる申請に限定される。

【0005】また、従来方式においては、申請される申請書類は膨大となり、それらを保管する保管場所を必要とする。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上記従来技術は、OCRシート等の光学的読み取り可能な用紙へ変更可能な申請書は、その様式を機械入力の為に変更するという条件であり、公的な申請書は、その様式を機械入力の為に法律等の規則により変更することができない場合が多いため、一般の申請人に入力作業を分担させることが出来なかった。また、申請書記入様式、記載事項内容の指導、記載結果の正確性確保のための確認に関する配慮がされおらず、申請書作成の指導をする人を必要とし、窓口側では申請書の受付後の記入内容の入力作業が必要となり、受付完了までに時間がかかるという問題があった。

【0007】本発明の目的は、機械入力である為に法律等の規則により変更ができない申請書に関して、自動読み取り可能な申請書を業務不案内な一般申請人により作成させて、申請書作成、入力受付処理作業の省力化、処理時間の短縮、申請書記載内容の精度を向上させることを可能とする申請書作成システムを提供することにある。

【0008】本発明の他の目的は、申請書を紙にではなく、電子ファイル形式で申請書記憶手段に格納することにより、申請書の保管場所を大幅に削減する申請書作成

システムを提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明はペンにより漢字を含む文書、絵、サイン等を直接入力することできる入力部と入力情報の入出力部（入出力部同一エリア）を有するペン入力方式コンピュータを用いたシステムで実現される。

【0010】本システムは、申請人の申請内容の記入、チェックするためのペン入力コンピュータを含む申請書作成装置と、申請書作成装置において作成される申請書を窓口に登録するための申請書受付装置から構成されている。

【0011】申請書作成装置は、申請書のフォーマットである画面定義等や申請書の記入要領を説明したり、記入上の注意を促すために用いる申請書データを記憶するメモ리카ード等の携帯可能な電子媒体である申請書データ記憶手段と、前記申請書データ記憶手段に格納されるデータを読み込み、表示し、前記表示されたデータ上に申請人が記入する申請内容となるデータを前記データと共に読み込み、ディスプレイに展開するペン入力コンピュータの処理装置である申請書データ入出力手段と、前記申請書データ入出力手段に表示される申請書の記入要領の説明に対して表示されるメニューのうち該当するものを指定することにより応答し、前記申請人が記入する申請内容となるデータを前記申請書データ入出力手段に記入するペンコンピュータのペンである申請内容記入手段と、前記申請人が記入及び押印する申請内容となるデータが適切に記載されているかどうかを確認するために用いる条件チェック項目を入力するキーボードである条件チェック項目入力手段と、前記申請人が申請内容となるデータが適切に記載されているかどうかを確認するために用いる条件チェック項目を記憶する条件チェック項目記憶手段と、前記申請人により記入される申請内容となるデータを申請書データ入出力手段に内在する前記条件チェック項目入力手段により入力される条件チェック項目と比較することにより、入力される申請内容が適切かどうかを判定する申請内容チェック手段と、前記申請書データと申請書データ上に記入される申請書データ入出力手段に内在する申請内容チェック手段によりチェックされる申請内容からなる申請書登録データを記憶する記憶媒体とを設ける。

【0012】一方、申請書受付装置は、通信回線を介して前記申請書作成装置より転送される申請書登録データを登録する申請内容登録手段を設ける。

【0013】

【作用】各種の申請業務において、ペンにより漢字を含む文書、絵、サイン等を直接入力し、印鑑の印影を含む申請内容を入力する入出力部を有するペン入力コンピュータである申請書データ入出力手段を用いることにより、一般の申請人が直接コンピュータ入力を行うことに

より、申請処理を行うことが可能となり、申請人の押印も不要となる。

【0014】申請人が携帯する申請書データ記憶手段のデータを申請書データ入出力手段に読み込み、表示することにより、入力誘導する機能が提供され、従来の記入に関する指導を人から受けるものと同じ効果が得られ、ペン入力コンピュータのペンである申請内容記入手段により記入される申請内容とキーボード等の条件チェック項目入力手段により入力される条件チェック項目を比較する申請内容チェック手段により申請人が申請内容を記入する際に、リアルタイムに申請内容の確認が行える。また、申請書データと申請書データ上に記入される申請内容チェック手段にチェックされる申請内容からなる申請書登録データは申請書受付窓口となる申請書受付装置に転送し、申請内容登録手段に登録することにより、申請書受付窓口側の端末入力処理が削減される。このため、申請書作成入力受付処理の省力化、処理時間の短縮、申請書記載内容の精度向上が可能となる。また、申請人に対して、印鑑の印影を含む申請書を出力することを可能とする。

【0015】申請書データ記憶手段及び申請書登録データを記憶する記憶媒体は、申請書作成装置から取外しが可能なメモ리카ード等の電子媒体であるため、申請書作成、申請書受付処理を行う各種業務およびシステムにおいて、メモ리카ード等の電子媒体で申請書フォーマット、記入要領等の申請書データを配布、あるいは販売し、電子媒体で申請書を受理することを可能とする申請書作成システムを構築できる。また、申請書のフォーマット変更に容易に対応することが可能となり、作成され登録される申請書の保管場所の削減を図ることも可能となる。

【0016】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図1、図2、図3、図4、図5により説明する。

【0017】図1は、本発明を住宅資金融資業務の申請書受付処理に適用した場合のシステム構成図であり、図2は、本発明を住宅資金融資業務の申請書受付処理に適用した場合のフローチャート、図3は、申請書データのデータフォーマット、図5は、申請書登録データのデータフォーマット、図4は、条件チェック項目のデータフォーマットである。

【0018】図1において、1は、申請書作成のための申請書作成装置であり、2は、申請書受付装置である。申請書作成装置1において、4は、ペン入力コンピュータの処理装置であり、ペン3により申請書データ入出力手段4より入力された情報を申請書データ入出力手段4に記入して表示する。7は、印鑑入力手段であり、申請書への押印のために使用される。8は、メモ리카ード等の電子媒体である申請書データ記憶手段であり、9は、メモ리카ード等の電子媒体である条件チェック項目記憶

手段である。10は、メモリカード等の記憶媒体であり、申請書内容の格納に使用される。6は、プリンタであり、申請書の印刷のために使用される。申請書受付装置2は、申請書受付の処理のためのものであり、申請書受付装置への申請書データの引渡しには、11及び12の通信装置を使用し、申請書データ入出力手段4に内在するデータを転送する方法と記憶媒体10のデータを接続機13を使用し転送する方法とがある。15に転送され蓄積される申請書登録データは、制御装置14により、申請書作成以降の申請業務に用いられる。

【0019】図2のフローチャートを用いて本システムにおける申請書の作成処理の流れを説明をする。

【0020】まず、申請書データ記憶手段8に格納される申請書のフォーマット等の申請書データをペンコンピュータの処理装置である申請書データ入出力手段4に読み込み(101)、申請書データ入出力手段4上に申請業務の種類を分類するメニュー等の表示を行う(102)。申請人は、メニュー表示に住宅資金融資と担保融資があるため、住宅資金融資をペン3で選択する。申請書データ入出力手段4は、必要のある項目である記入項目だけを申請書データ入出力手段4に記入要領(用語解説)等と合わせて表示する。申請書データ入出力手段4は申請人により記入される申請内容を申請書データ入出力手段4に読み込み(103)、リアルタイムに条件チェック項目18を参照し、記入条件の確認の検査を行なう(104)。例えば、申請書データ入出力手段4に内在する申請内容チェック手段は、条件チェック項目記憶手段に格納される条件チェック項目18を参照し、申請人により一般住宅が既に入力されている場合、申請人により償還期間に入力された値は、5以上10以下の値であるかを検査する。検査結果が、不正の場合、つまり、前の例では、申請人が、一般住宅の場合の償還期間を20と入力した(5以上10以下ではない)場合(105)、申請内容チェック手段は、誤入力項目を再度入力させるためにメッセージを表示する(106)。検査結果が、正しい場合(105)、申請書書込処理により申請人の記入した申請内容を記憶媒体10へ格納する(107)。申請書データ入出力手段4は、申請書データの記入項目が全て記入済みか否かを記憶媒体10に格納される申請書登録データを参照して検査する(108)。例えば、申請書データ入出力手段4は、申請書データ記憶手段8の記入項目より、住所が、記入項目となっている場合、図4の記憶媒体10に記憶されるの住所の項目を参照し、記入の有無を検査する。検査の結果、未記入項目がある場合102から108の処理を繰り返す。検査の結果、全項目記入済みの場合、申請書データ記憶部8の印影有無位置から押印が否か検査し(109)、押印が必要である場合、その要領を表示する。申請人が印鑑入力手段6に押印したデータを申請書データ入出力手段4が読み込み、記憶媒体10に印影データを格納し、印影

フラグを1とする。申請書入出力手段は、検査の結果、押印が必要な場合、記憶媒体10に格納された印影フラグを参照し、押印情報の有無を検査する。検査結果が不正の場合、押印が必要である旨その要領を表示する(110)。検査結果が正しいか、押印の必要のない場合、申請書データ記憶部の申請書のフォーマットより規定の様式レイアウトを参照し、図5の記憶媒体10より、印影を含む全記入項目の情報を付加し申請書を出力する(111)。

【0021】プリンタ6により、図3の申請書データの規定の様式レイアウトを参照し、図4の記憶媒体10に格納される申請書データより全記入項目の情報を付加し、作成される申請書である申請書登録データ17を出力する(111)。さらに、申請書登録データ17は、申請書受付の窓口である申請書受付装置2に転送する(112)。申請書受付装置2では、転送される申請書登録データを受信し、申請内容登録手段15により登録する(113)。

【0022】上記実施例は、住宅資金融資業務の申請書受付処理について説明したが、本発明は、住宅資金融資業務に限定されるものでなく、広く、行政窓口、金融機関窓口等、窓口業務の内、押印の必要性の有無に係わらず申請書を作成する業務に適用できる。

【0023】

【発明の効果】本発明によれば、以下の効果がある。

【0024】申請書のフォーマットや申請書記入方法を説明するためのデータを申請書データとして携帯可能なメモリカードの如き記録手段に登録し、それを用いて申請処理を行うため、申請処理に伴う申請書記入のための窓口業務が削減できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例のシステム構成を示す図である。

【図2】本発明における申請書作成処理の流れ図を示す図である。

【図3】申請書データのデータフォーマットを示す図である。

【図4】申請内容データのデータフォーマットを示す図である。

【図5】条件チェック項目のデータフォーマットを示す図である。

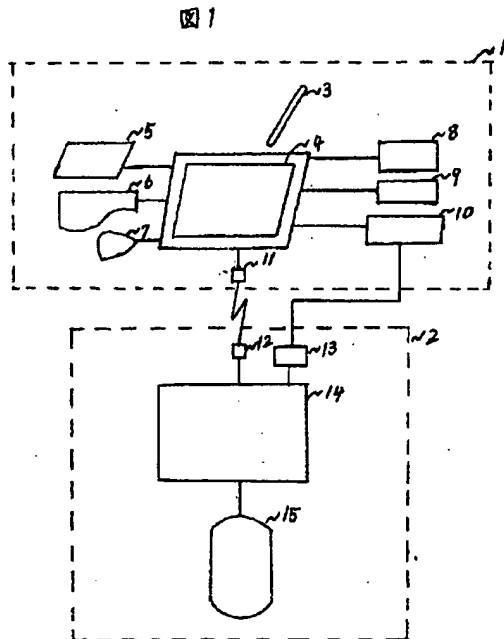
【符号の説明】

- 1 申請書作成装置
- 2 申請書受付処理装置
- 3 ペン
- 4 申請書データ入出力手段
- 5 キーボード
- 6 プリンタ
- 7 印鑑入力手段
- 8 申請書データ記憶手段

- 9 条件チェック項目記憶手段
- 10 記憶媒体
- 11 通信装置
- 12 通信装置
- 13 接続機

- 14 制御装置
- 15 申請内容登録手段
- 16 申請書データ
- 17 申請書登録データ
- 18 条件チェック項目

【図1】

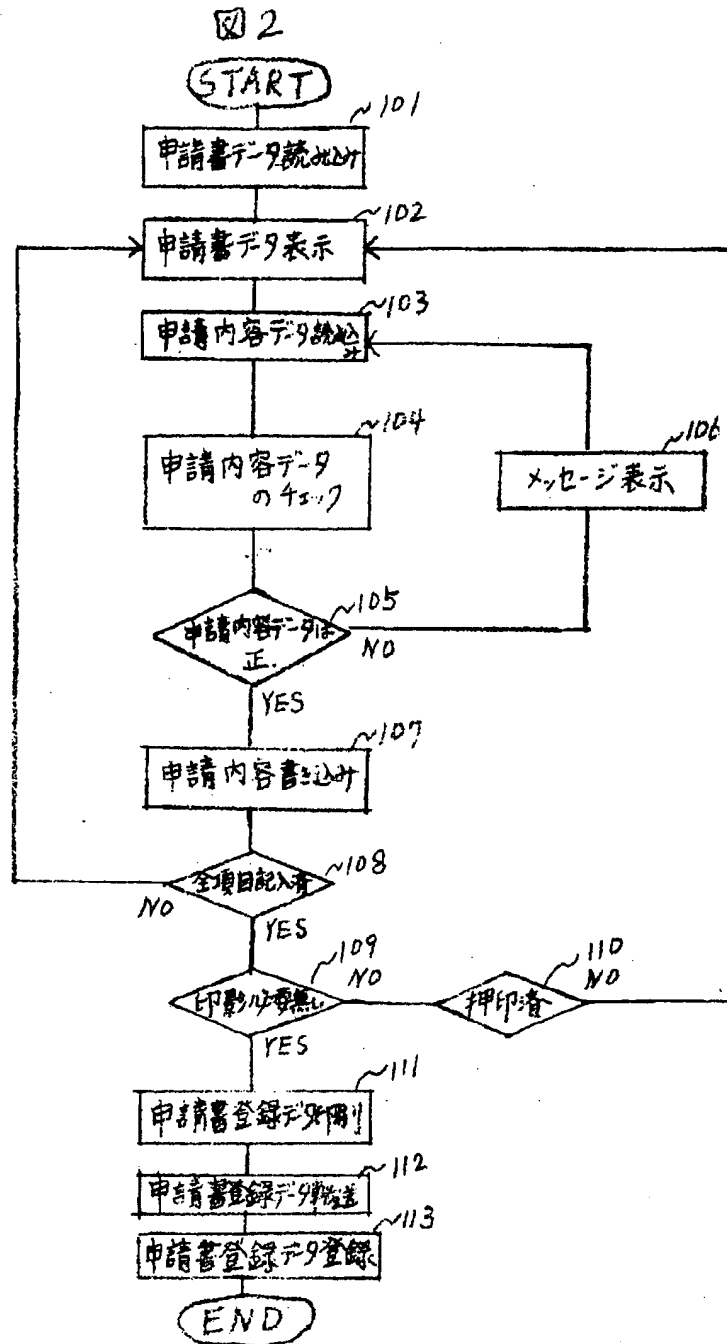


【図3】

図3

申請書名称	書式・サイズ	印影有無位置	記入項目	記入要
A	A497...	(x, y)	1, 2, 3, 5	a, b
B	B537...	無	1, 2, 7, 8	d, β

【図2】



【図4】

図4

番号	受付日	氏名	住所	住宅区分	償還期間	印影フラグ	印影フラグ
001	930105	A	C	1	25	1	xxx
002	930105	B	D	2	30	0	

【図5】

図5

項目	区分	チェック内容
償還期間	一般住宅	$5 \leq x \leq 10$
	大型住宅A	$5 \leq x \leq 25$
	大型住宅B	$5 \leq x \leq 30$
印影フラグ		/

This Page Blank (uspto)